

# 3県の防災士連携へ

## 北関東支部連絡協を設立

会  
都宮  
宇総

地震など大規模災害時に北関東三県(栃木、茨城、群馬)の防災士が連携して対応しよう

と、日本防災士会北関東支部連絡協議会の設立総会が二十六日、宇都宮市内で開かれた。各県から代表者ら約二十人が出席。各県で行われる防災訓練への相互参加と協力、講演会開催などを決めた。日本防災士会によると、地方支部の連絡協設立は全国で初という。六月の岩手・宮城内陸地震、今年二十四日に岩手沿岸北部で発生した地震が記憶に新

しいが、連絡協は今後、三県をまたぐような大規模災害発生時の人材派遣など、被災地支援に向けたネットワーク構築を目指していくという。

防災士制度は一九九五年の阪神淡路大震災を教訓に発足。民間の防災リーダーを養成することが目的で、大災害が発生した際、消防、自衛隊など公的機関が到着するまでの間、避難や救助活動をするのが主な役割だ。

北関東三県の連絡協は、昨年十月に開かれた日本防災士会全国支部長会議で三県から同時に提案された。

初代会長になった日本防災士会群馬県支部の丸尾(まると)成人支部長は「普段から三県の連携を深め、災害時には互いに支援していきたい」とあいさつした。



日本防災士会北関東支部連絡協議会の設立総会＝26日午前、宇都宮市昭和1丁目